
家庭教ヒットマンリボーン†カブト編†

長谷川隆起

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家庭教ヒットマンリポーン+カブト編+

【Nコード】

N6491Z

【作者名】

長谷川隆起

【あらすじ】

家庭教ヒットマンリポーンの二次創作です。主人公はツナではなく、とあるファミリーのボスとある銀とゆう少年が主人公です

修行

十代目の沢田綱吉と手を組む事になったミリオンファミリーのボス、銀はあらゆるパラレルワールドを支配する力を持つ、ファミリー、カプトファミリーを倒すためリボンへ修業を頼んだ。

並盛り中のグラウンドにはリボンと銀の姿があった。リボンは笑いながら言った。

「お前はツナより力はある。だが、まだファミリーと自分の力を最大限に出し切れていない」

リボンはレオンを銃の形にして銀に向かって構えた。

「銀、最初の修行はこれだ」

リボンは歩いているひばりに死ぬ気弾を撃った。ひばりの額には死ぬ気の炎が宿っている。

「君、私服とは校則違反だよ。学校のふうきを見出す奴はかみ殺す」

ひばりはトンファを両手に持ち、銀の方へ走っていった。

トンファを鮮やかに銀は交わしている。しかし、それを見てリボンは深い顔をしている。リボーンが声を漏らす。

「やっぱりな」

リボーンはひばりの所へ行き、言った。

「ひばり、悪いがもういい。帰ってくれ」

「しょうがない。今度あつたらかみ殺す」

ひばりは学校の屋上へと帰って行った。銀は驚いた顔で叫ぶ。

「なんでだよりボーン!!」

「まだわかんねえのか」

リボーンはそう言い、銀に殴りかかった。初めの右フックは交わしたが、ほぼ同時にきた蹴りには反応できず、蹴り飛ばされた。

「うっ」

リボーンが倒れ込んだ銀の足元に来ていった。

「お前の動きにら覇気がねえ」

「覇気？」

「覇気がねえ動きは簡単にわかる」

「教えてくれよ覇気ってやつを」

リボーンはニヤリと笑いながら言った。

「それはお前自身で身につけるんだ仲間と一緒に」

「ファミリー（仲間）と……」

「今日の修行はとりあえず終了だ。今日はママンの特性カレーだ」

銀は腹を鳴らしながら沢田家へと走った。

「ただいま」

リビングに行くと言ボがカレーをむしゃむしゃと放馬っている。
イーピンはツナの母の膝で眠っている。言ボがスプーンで皿を叩
き叫んだ。

「おかわりー！！おいぎーんもたもたしてると、言ボさんが全部
食べちゃうもんね！！」

言ボがまたむしゃむしゃと食べ始めた。その姿を見て、ツナは申
しわけなさそうな顔をして言う。

「ごめんよ銀。後でおいしい物おごるから」

「小さい子はよく食べないとなハハハ」

銀は苦笑いをして本心をごまかす。

修行

十代目の沢田綱吉と手を組む事になったミリオンファミリーのボス、銀はあらゆるパラレルワールドを支配する力を持つ、ファミリー、カプトファミリーを倒すためリボンへ修業を頼んだ。

並盛り中のグラウンドにはリボンと銀の姿があった。リボンは笑いながら言った。

「お前はツナより力はある。だが、まだファミリーと自分の力を最大限に出し切れていない」

リボンはレオンを銃の形にして銀に向かって構えた。

「銀、最初の修行はこれだ」

リボンは歩いているひばりに死ぬ気弾を撃った。ひばりの額には死ぬ気の炎が宿っている。

「君、私服とは校則違反だよ。学校のふうきを見出す奴はかみ殺す」

ひばりはトンファを両手に持ち、銀の方へ走っていった。

トンファを鮮やかに銀は交わしている。しかし、それを見てリボーンは深い顔をしている。リボーンが声を漏らす。

「やっぱりな」

リボーンはひばりの所へ行き、言った。

「ひばり、悪いがもういい。帰ってくれ」

「しょうがない。今度あつたらかみ殺す」

ひばりは学校の屋上へと帰って行った。銀は驚いた顔で叫ぶ。

「なんでだよりボーン!!」

「まだわかんねえのか」

リボーンはそう言い、銀に殴りかかった。初めの右フックは交わしたが、ほぼ同時にきた蹴りには反応できず、蹴り飛ばされた。

「うっ」

リボーンが倒れ込んだ銀の足元に来ていった。

「お前の動きにら覇気がねえ」

「覇気？」

「覇気がねえ動きは簡単にわかる」

「教えてくれよ覇気ってやつを」

リボーンはニヤリと笑いながら言った。

「それはお前自身で身につけるんだ仲間と一緒に」

「ファミリー（仲間）と……」

「今日の修行はとりあえず終了だ。今日はママンの特性カレーだ」

銀は腹を鳴らしながら沢田家へと走った。

「ただいま」

リビングに行くと言ボがカレーをむしゃむしゃと放馬っている。
イーピンはツナの母の膝で眠っている。言ボがスプーンで皿を叩
き叫んだ。

「おかわりー！！おいぎーんもたまたしてると、言ボさんが全部
食べちゃうもんね！！」

言ボがまたむしゃむしゃと食べ始めた。その姿を見て、ツナは申
しわけなさそうな顔をして言う。

「ごめんよ銀。後でおいしい物おごるから」

「小さい子はよく食べないとなハハハ」

銀は苦笑いをして本心をこまかす。言ボ達が寝付く頃にツナと銀
はリビングにいた。

「今回銀が戦う相手はどんなやつなの？」

「やつはパラレルワールドの全てを支配する」

「パラレルワールド？」

「パラレルワールドとは過去、現在そして未来の世界のことだ。今回の敵がどれほど強大か知っているだろう」

「でも俺達だけでかなうのか奴らに？」

「おそらく無理だ。そこで俺はザンザスに力を借りる事にした」

「おっ俺はぜんぜんいいいけど、ザンザスが聞くかどうか」

ツナは両手を左右に振り、焦っている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6491z/>

家庭教ヒットマンリボーン＋カブト編＋

2011年12月21日23時55分発行